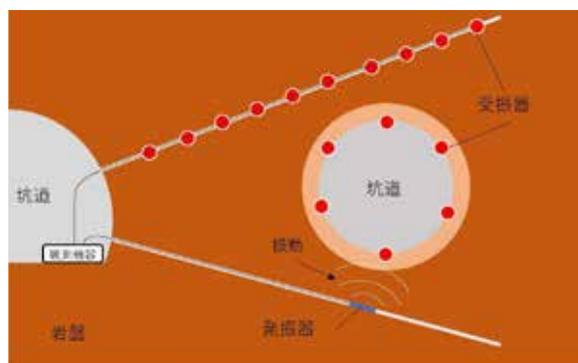


『物理探査』

物理探査とは物を壊さずに中身を調べる方法です。例えると病院でお医者さんが身体を調べるときに、いきなり手術をするのではなくレントゲンやMRIなどで、体の中の状況を外から確認することを想像してもらえるとわかりやすいかと思います。

物理探査の一つで、センターでも使用している「弾性波トモグラフィ」と呼ばれる探査方法はボーリング孔内の様々な位置から発振した弾性波（打撃により岩盤に伝わった波）を受振し、岩盤内を伝わる波の速度の分布を把握し、坑道周辺の岩盤に生じたゆるみの状態を推定することができます。

「弾性波トモグラフィ」は「振動」を利用した探査方法ですが、他にも「電磁波」などを利用した物理探査の方法もあります。



【弾性波トモグラフィイメージ】

『処分概念オプション』

センターで取り組んでいる主要な研究テーマの一つで、地下深くの岩盤中に高レベル放射性廃棄物を埋設するという地層処分の概念を実現するための色々な方法のことです。例えば、処分場で人工バリアを縦（たて）置きにするのか横置きにするのかといった処分方法や坑道の埋め戻し方法の違いなどについて複数の選択肢を用意しておくための研究テーマです。

『外部委員会』

一般的には、「第三者委員会」とも呼ばれていますが、当事者ではない外部の専門家があるテーマについて中立的・客観的に評価する組織のことです。センターの事業や研究成果を評価いただく「外部委員会」とは次の2つの委員会で、物理、地質、工学、地球科学、計算科学などを専門とした大学（北大、東北大、名大、京大など）の教授や原子力機構以外の研究所の研究員などで構成されています。



【幌延での外部委員会開催の様子】

・地層処分研究開発・評価委員会

地層処分研究全体に関する研究開発課題の評価や、研究開発に関する事項について討議するための委員会。7名の外部専門家で構成。

・深地層の研究施設計画検討委員会

幌延深地層研究計画における研究開発について審議検討をし、客観的な評価を計画に反映し、優れた成果を効率的に得て、これを処分事業や安全規制などに反映していくための委員会。10名の外部専門家で構成。



センター QRコード

問い合わせ先: 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
幌延深地層研究センター: 電話・告知端末機: 5-2022
ゆめ地創館: 電話・告知端末機: 5-2772



ゆめ地創館QRコード